

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4697200014
法人名	株式会社 EGUCHI
事業所名	グループホーム あじさい
訪問調査日	平成21年7月23日
評価確定日	平成21年8月24日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4697200014
法人名	株式会社 EGUCHI
事業所名	グループホーム あじさい
所在地	肝属郡東串良町池之原1998番地1 (電話) 0994-63-5919

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年7月23日

【情報提供票より】(平成21年6月25日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成19年7月26日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 8 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(6月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	59 歳	最高	100 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人愛心会大隅鹿屋病院 吾平クリニック
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

穏やかな田園風景の中、ゆったりとした敷地に建てられたホームである。一年を通して花が絶えないように、季節毎に開花する樹木が植えられており、四季を感じる工夫がなされている。日常的な外出やドライブに加え、一泊で温泉旅行を実施するなど、利用者の楽しく充実した日々のために努力を惜しまず取り組んでいる。地域とのつながりが深く、近所の方や昔なじみの知人が訪ねて来て一緒にお茶を飲んだり、お祭りや敬老会にも積極的に参加するなど、温かい交流が続いている。運営推進会議には、複数の町担当者や地域包括支援センター職員が出席しており、行政との良好な連携体制が築かれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 「家族等への報告」については、「あじさい便り」が毎月発行されるようになり、行事予定や近況等が写真入りで報告されている。「職員を育てる取り組み」では、今年度より研修計画を立て、段階やニーズに応じた研修体制をスタートしている。「…利用者本位の介護計画」については、ミーティングにおける計画の意義や必要性の再確認、および「心身の情報」を記入することで、担当者が利用者の意向や課題を意識して介護に取り組む仕組みが機能し始めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員に自己評価票を配布し、それぞれが意義を確認しながら記入し、最終的に管理者がまとめ上げている。また、外部評価結果については、ミーティングにおいて対策を話し合い、改善へ向けて迅速に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、地域住民や民生委員経験者、行政および利用者家族が参加しており、事業所の活動状況や今後の計画について報告している。町福祉課から3名、地域包括支援センターから1名の参加があり、行政との連携体制が充実している。会議で出された意見や要望に対しては迅速に対応し、運営に活かせるよう取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会を年に1回開催し、ご家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。出された相談や要望については、ミーティング等で職員全員へ周知し、必要に応じて対策を講じて改善するなど、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) お祭りや相撲大会、敬老会など、地域の行事には積極的に参加している。マジックショーや踊りのボランティアを受け入れたり、近隣住民や顔馴染みの知人が来訪して一緒にお茶を飲むなど、地元の人々との交流に努めている。また、地域住民からの介護相談に対応したり、災害時の避難場所としての活用を申し出るなど、地域への貢献にも取り組んでいる。

## 2. 評価結果詳細

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者を含め、職員全員で理念の見直しを行い、わかりやすく浸透しやすい文言としている。さらに、基本方針として地域との連携を掲げており、事業所の役割を意識したものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、リビングルーム、事務所に理念を掲示している。月に二回行われるミーティングの中で、理念に基づく具体的なケアの方法を職員全員で話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭りや相撲大会、敬老会など、地域の行事には積極的に参加している。マジックショーや踊りのボランティアを受け入れたり、近隣住民や顔馴染みの知人が来訪して一緒にお茶を飲むなど、地元の人々との交流に努めている。また、地域住民からの介護相談に対応したり、災害時の避難場所としての活用を申し出るなど、地域への貢献にも取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に自己評価票を配布し、それぞれが意義を確認しながら記入し、最終的に管理者がまとめ上げている。また、外部評価結果については、ミーティングにおいて対策を話し合い、改善へ向けて迅速に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域住民や民生委員経験者、行政および利用者家族が参加しており、事業所の活動状況や今後の計画について報告している。町福祉課から3名、地域包括支援センターから1名の参加があり、行政との連携体制が充実している。会議で出された意見や要望に対しては迅速に対応し、運営に活かせるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者や管理者は、町担当者と相談や質問・意見交換を綿密に行っており、担当者が事業所に立ち寄り、利用者の暮らしぶりなどを見てもらうこともあり、ともに連携してサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される「あじさい便り」には、写真を入れて活動内容や行事計画を報告し、職員の異動についても紹介している。面会時や電話で利用者の様子を報告しており、月に一度は金銭出納帳の確認をいただいている。また、家族会では全職員の紹介を行い、利用者の暮らしぶりをビデオに撮り上映するなどして報告に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年に1回開催し、ご家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。出された相談や要望については、ミーティング等で職員全員へ周知し、必要に応じて対策を講じて改善するなど、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの職員による支援の重要性を理解しており、離職を最小限に抑える努力をしている。やむを得ず離職等があった場合は、利用者やご家族へ報告し紹介するとともに、新入職員が利用者に関わりやすいように、先輩職員が配慮しながら支援を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、職員の経験や役割に応じて研修受講者を決めている。外部研修に参加した職員は、ミーティングで報告会を開き、職員間での共有に努めている。また、事業所内で委員会活動を行っており、必要に応じて外部講師を呼ぶなどして知識・技術の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に入会しており、研修会や勉強会を通して交流を図っている。また、地区の行事に協議会の一員として参加するなど、同業者との交流を持ち、サービスの質向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学に来ていただき、お茶を一緒に飲んだりして、雰囲気になじめるように支援している。見学に来ることができずに利用開始となった方の場合、ご家族や知人の面会をなるべく多くしてもらい、安心感を持って暮らしていただけるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事などは、基本的に利用者と共に行うようにしている。行事食の調理方法や地域の習わし、行事など、利用者に教えてもらいながら知恵を授かり、お互いに支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言動や表情を観察し、思いや意向の把握に努めている。さらに、毎月担当者がモニタリングを行い、それぞれの気づきを記録に残し、全職員が共有できるようにしている。また、誕生会の食事メニューや飾り付けなどについては、利用者が選択、決定できるように工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の意向や要望を聴取した上で、毎月のカンファレンスでの意見や担当職員のモニタリング、医師の意見やアドバイスなどを反映した介護計画を作成している。さらに、ミーティングで計画の再確認を行うとともに、その意義や必要性について話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングおよび6ヵ月毎の定期的な評価を行っている。期間終了時に加え、利用者の状態変化に応じて、その都度担当職員を中心に話し合い、状況に合わせたサービス内容への変更を検討し、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出の支援を行うなど、本人やご家族の要望に柔軟に対応している。利用者が入院された場合は、医療機関の関係者と話し合いながら、早期退院に向けた働きかけを行っている。また、地域住民からの介護相談などにも応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医を受診できるようにしており、希望に応じて職員が同行している。受診の際は、バイタルチェック表や測定表を持参して医師に情報提供するなど、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始前に事業所としての方針を説明している。利用者の状態に応じて、かかりつけ医やご家族を交えて話し合いを行い、意向を確認しながら対応方針を決めて、職員を含む関係者全員で共有できるように努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いや声かけに際して利用者の尊厳を重視しており、職員の意識向上を図るとともに、対応方法について職員間でも注意し合っている。利用者同士の会話にも気を配り、お互いに傷つけてしまうことの無いように配慮している。入職者の指導の際にも、守秘義務と尊厳についての教育を徹底しており、個人記録等の管理も適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床・就寝時間など、一人ひとりの状態や希望に合わせて日々の過ごし方を支援している。また、散歩や玄関先でのお茶飲みなど、本人がしたいことを実施できるように、特別に制限すること無く希望を尊重した対応を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1～2回の外食を楽しんだり、調理の下ごしらえや盛り付け、後片付けなどを職員と一緒にしている。近隣住民やご家族から差し入れられた季節の食材を使い、穏やかな雰囲気のもとで食事を楽しんでいる。また、誕生日には、個別の希望メニューとし、手作りのケーキでお祝いするなど、特別な楽しみも取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には週3回と決まっているが、シャワー浴は毎日できるようになっており、希望や状態に合わせて対応している。入浴状況はバイタルチェック表に記録して管理しており、少なくとも週に2～3回は入ってもらうように支援している。個別浴を基本として、羞恥心への配慮もなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テーブル拭きやモップかけ、食事の準備や後片付けなど、生活歴や力量に合わせて力を発揮してもらえる機会を作っている。外食やDVD鑑賞、誕生会などの楽しみごとを支援しており、敷地内でゲートボールができるように設備を整えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一泊旅行や外食には全員で出かけ、日常的な買い物や散歩、ドライブなどには、一人ひとりの希望にそって対応するなど、なるべく戸外へ出かけるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵をかけることは無く、自由に出入りできるようにしている。利用者が外出されそうな場合はすぐに察知して、引き止めずにさりげなく付いて行き見守りを行うなど、安全に配慮した自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、避難訓練や救命訓練を行っており、年内には夜間想定での訓練も計画している。運営推進会議において近隣住民の協力を呼びかけたり、逆に事業所を災害時の避難場所とすることを提案するなど、地域との協力関係を築けるように働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量の目安を定め、摂取量観察が必要な利用者については詳細な記録により管理している。食事摂取量はバイタルチェック表に記載しており、摂取量の把握に努めている。栄養バランスを考慮しながら献立を作成しているが、専門職からのアドバイスは今のところ受けていない。	○	献立や摂取状況について、管理栄養士などの専門的な観点からアドバイスを受けることで、さらなるサービスの質向上につなげることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は対面キッチンで広々としており、調理の音や匂いを感じながら、家庭的な雰囲気でも過ごすことができる。庭には四季折々に花を付ける樹木が植えられており、季節を感じながら居心地よく暮せるような工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みの箆笥やロッカー、冷蔵庫、写真や装飾品などが持ち込まれており、居心地よく過ごせるように配慮がなされている。携帯電話の持ち込みも可能であり、自宅と変わらない環境で生活できる。		